



Shikoku
University

四国大学

地域教育ガイドブック

Regional Education Guidebook 2024

2024

四国大学/四国大学短期大学部



四国大学の
地域教育全体の紹介

P02 ▶ P04

- 四国大学の地域教育
- 地域教育プログラムの流れ

全学共通科目

P05 ▶ P08

- ◎ 地域連携科目
- 消費者市民社会 ● 災害と防災
- 地域未来探求 ● 地域創生入門
- 徳島の歴史と文化 ● 四国いやしの道

Q&A

自由科目

P09 ▶ P16

- 自由科目に地域教育関連科目を開設
- 地域教育活動の取り組みについて
- 「SUDachi CARD」と単位認定の流れ
- 活動時間の計算
- 学生の活動とチューターの役割
- 地域貢献・ボランティア活動事例の紹介
- 優れた活動等に対する表彰
- とくしまボランティアパスポートが開始

Q&A

専門科目

P17 ▶ P20

- 専門科目(地域志向型)

Q&A

地域研究

P21 ▶ P22

- 「新『あわ学』」への取り組み
- 「あわ検定」等

全学共通・地域教育
センターの紹介

P23 ▶ P26

- 地域教育・連携センターの紹介
- 全学共通教育センターの紹介

全学共通教育センター
地域教育・連携センター
長
メッセージ



全学共通教育センター
地域教育・連携センター 長 松重 和美

四国大学は、地域から信頼される“先進的地域貢献大学”を目指しており、全学共通科目および専門科目で地域関連授業を体系化させるなど、文部科学省『地(知)の拠点(COC)事業』およびCOC+事業を継承・発展させています。

本ガイドブックは、地域教育に関する授業・カリキュラムを分かりやすくまとめたものです。学生の皆さんが真に地域を理解するには、まず地域の自然・歴史・伝統文化・経済など地域の現状を理解するとともにその課題を把握すること、更に実際に現地を体感することも重要でボランティア活動なども単位化しました。皆さんが、本ガイドブックを地域学習の指針として活用し、将来“地域に貢献できる人材”に成長されることを期待しています。

四国大学の地域教育

四国大学では、これからの社会を担い新しい時代を切り拓いて社会をリードする人材を育てるために、2014年度から教育内容や教育方法などの改革を進めてきました。本学が進める教育改革の中で、これからの地域社会で地域創生を担う若い世代が身に付けるべき必要なものを体系的に整理して、「四国大学地域教育プログラム」を作成しました。このプログラムでは、より多くの学びの成果を得るために、大学と地域社会の関係者が協力・協働して地域の課題を解決するための知識や技術を身に付けることを目指しています。これからの変化する時代を生き抜き、永く続く社会の担い手となることを、学生に期待しています。



全学共通科目

全学共通科目の地域連携科目に6科目を設定しています。

地域教育に関する教育課程

(大学・短期大学部共通)

専門科目

学科・専攻の専門科目の中で、特に地域に関する内容を含んだ科目を地域志向型科目とし、それぞれの学科・専攻に2～3科目設けてあります。



自由科目

自由科目の中に、地域教育関連科目として3科目を設けています。この科目を履修すると卒業単位として認められます。(看護学科を除く。)



地域教育プログラムの流れ

1年生

全学共通科目（地域連携科目）

消費者市民社会

地域未来探求

徳島の歴史と文化

災害と防災



2年生

地域創生入門

四国いやしの道

※短期大学部は1年次で開講します。

履修指導・支援

全学共通教育センター

3年生

専門科目（地域志向型）

学科・専攻の専門科目の中で
地域に関する内容を
含んでいる科目

※学科によっては1年次から開講するものもあります。
(P17～20参照)



4年生



この地域教育プログラムは、「全学共通科目」の地域連携科目、学生の自主的活動を基にした「自由科目」、地域志向型の「専門科目」及び新「あわ学」への取り組みなどの「地域研究」で構成されており、それぞれの内容がつながりをもって新しい地域教育を目指した構成となっています。

地域貢献・ボランティア活動Ⅰ



学生の
自主的活動

地域貢献・ボランティア活動Ⅱ



地域貢献
活動

ボランティア
活動

地域企業等 研究活動



地域企業等
研究活動

活動支援

地域教育・連携センター

地域研究



新「あわ学」への
取り組み

「大学的
徳島ガイド」
の刊行

まなびーあ徳島
「新あわ学コース」
の実施

「あわ検定」
の実施



本学では、徳島をよく知り、学生一人ひとりが課題を見つけ未来に向かって取り組む力を養い、地域社会で活躍できる人材に育ってほしいと考えています。このため、全学共通教育の地域連携科目として6科目を開設しています。授業科目の具体的な内容は次のとおりです。

消費者市民社会

消費者の行動が世界と未来を変える

授業概要

1

契約の基礎知識

私たちは、たくさんの「契約」をしながら生活しています。そこで、契約の基礎知識やルールを学ぶことにより消費者トラブルから身を守るとともに、クーリング・オフなど被害を回復する様々な制度について学修します。



2

適切な商品・サービスの選択

消費者には、商品やサービスを自主的で合理的に選ぶ権利があります。価格、品質、安全性など、商品やサービスを選ぶ基準や価値観は、ますます多様化しています。暮らしの中の製品事故やリスク、商品に付けられているマークについて知識を深めることで、適切な選択をする目を養います。



3

生活設計と金銭管理

将来の夢の実現に向けたプランニングや計画的な金銭管理は、社会人になる前にしっかりと身につけておきたいスキルです。特に、インターネットによる通信販売やキャッシュレス決済の普及により、金銭管理が多様化複雑化する中であって、クレジットやローンの仕組みを中心にカード社会を賢く生きることが学びます。



4

倫理的消費(エシカル消費)

私たちが毎日手にしている様々な商品は、どの国でどのように生産されているかを考えてみましょう。その商品が消費される裏側で、自然環境破壊や児童労働など深刻な社会問題が起こっていないでしょうか。持続可能な社会発展のために求められる、人や地域、環境に配慮した倫理的消費について考えます。



5

消費者市民社会

私たちは、生まれてから死ぬまでずっと消費者です。そして、一人ひとりの消費行動は、自分の欲求や満足を満たすためだけのものではなく、現在の社会、経済、環境、そして将来生まれてくる子どもたちにも大きな影響を及ぼします。消費者がお互いの個性を尊重し、考え方の違いを認め合いながら、公正で持続可能な社会づくりに主体的に参画する社会、それが消費者市民社会です。



大学1年前期

短大1年前期

地域未来探求

徳島の生活を豊かにする

授業概要

食生活、医療、子育てや高齢者対策など、地域における私たちの暮らしを取り巻く環境を理解します。こころを豊かにする芸術・スポーツの分野について学び、心身共に豊かな生活を送ることができるようにします。この学修を通して、課題解決能力を培い、知識を活かし、未来の地域づくりに参画できる輝かしい未来生活を創造しましょう。この授業は次の5つの分野について学びます。

1

健康と食生活

徳島県の特産品や食文化について知ると共に、徳島県民の生活習慣と健康との関わりについて学び、その特徴や問題点について考えます。

2

徳島における医療環境

保健統計資料をもとに徳島県民の健康状態について考え、健康を守るための医療サービスについて学びます。そして、徳島県の医療の今後について考えていきます。

3

徳島の子ども・子育て支援の現状と課題

徳島県で実践されている子ども・子育て家庭への支援、保育所・幼稚園・認定こども園で実施されている子育て支援や保護者支援の現状と課題を理解し、自分の子育て期に望む支援を考えます。

4

高齢者対策と福祉

高齢者の疑似体験を通して、介護とはどのようなことか理解します。また、徳島の地域に根ざした介護に関する社会資源を調べ、地域での生活を続けるために必要な情報を収集し、住み慣れた地域で暮らすために必要な介護サービスを考えてみましょう。

5

心を豊かにする芸術文化・スポーツ

「わらべうた」や「阿波よしこの」を題材に、日本の音楽について知ると共に、徳島県の郷土芸能である阿波踊りの歴史的変容について理解を深めます。また、身近に参加できるスポーツ・運動を知り、地域の一員としてのスポーツ・運動との関わり方を学びます。さらに、徳島の書道文化の優れた点について気づき、今後の生活の中でそれらをどのように活用していけるのか考えます。

大学1年後期

短大1年後期

授業概要

1

徳島の自然環境

キャンパスのすぐそばを滔々と流れる吉野川を中心に、徳島の山や海に着目し、この豊かな自然環境と、私たちの身近な食や産業などの関係について深く学びます。



2

徳島の観光資源開発

まず、徳島の観光振興に関する取り組み方針や重点施策を学び、次に意見やアイデアを述べ合い、「観光とくしまブランド」、「滞在型観光」や「国際観光」の推進に向けて、四国大学版の観光振興施策を提案します。



3

徳島における地域創生のための取り組み

始めに徳島の現状から地域創生の必要性や企業成長のプロセスなどについて、また、地方版総合戦略と産業の関係などについて学びます。そして、地方を活性化させるための新しい取り組みや多様な働き方についてグループで話し合い、プレゼンテーションなどを行います。



徳島を知り、見直す

地域創生入門

大学2年前期

短大2年前期

科目名

授業内容(概略)

徳島の歴史と文化



大学1年前・後期

短大1年前・後期

「もっともっと知りたい 徳島!!」

徳島県は豊かな自然、歴史風土に恵まれ、人のぬくもりが強い地域性をもつ中で特色ある歴史文化が受け継がれてきました。一方、私たちを取り巻く自然・社会環境は急激に変化し、グローバルな時代にありながらも私たちはローカルな社会に生きています。過疎化や少子高齢化などが深刻化し、伝統文化・伝統工芸なども大きく変容してきています。本講義では、地元である「徳島」を題材に取り上げる自然・文化・風土が織りなす諸事象を学び、各地域における地理的・歴史的・文化的な観点から「徳島」を理解していく内容にしたいと考えています。授業内容は①徳島の地形と吉野川、②モラエスが暮らした徳島、③阿波三盆糖、④阿波の陶芸大谷焼、⑤阿波徳島の名所などです。単なる知識の習得や理解にとどまらず、「徳島」がどのような特性を持っているのかあらゆる角度から考察し、地域の誇りをもって「徳島」の活性化に取り組むなど、自ら責任ある行動を伴った新しい地域づくりに積極的に参画する意欲を育みます。「徳島をもっと知りたい」という学生は、ぜひ受講してください。

四国いやしの道



大学2年後期

短大1年後期

「四国の文化や伝統を学ぼう」

弘法大師空海ゆかりの札所とされる四国八十八ヶ所をめぐることを四国遍路と呼びますが、長い歴史をもつ四国遍路は、四国が世界に誇る文化遺産と言えるでしょう。科目名の「四国いやしの道」とは、この四国八十八ヶ所をめぐる道（遍路道）と、そこをめぐる人々（お遍路さん）のことを指しています。「いやし」とは、お遍路さんや観光客を迎える四国人（びと）のホスピタリティと優しさを言ったものです。この授業では、民衆の多様な信仰によって育まれてきた四国遍路の伝統と文化を、歴史学・宗教学・民俗学・美学などの多様な側面から切り取って、みなさんとともに再考し、再検討を加えたいと思っています。四国の風土に根差した遍路文化という貴重な伝統を学び考えることは、徳島をはじめとする四国の地域社会の素晴らしさを再認識することにもつながるでしょう。歴史・文化・伝統などという堅苦しく聞こえるかもしれませんが、多様な資料を用いて、わかりやすく楽しい話をしたいと思っています。単なるお国自慢ではなく、四国遍路を学ぶことで、四国の文化や伝統に誇りをもてるような授業になることを目指しています。

災害と防災



大学1年後期

短大1年後期

「地域の防災力を高める」

近い将来発生が予想されている南海・東南海地震はもとより、風水害などの自然災害に備えるためには、自助・共助・公助の役割を理解した上で、一人ひとりが正しい知識を持ち行動することが求められます。この科目では、徳島県の地理的特性や社会インフラの整備、情報網など様々な地域を取り巻く環境を理解しながら、災害発生メカニズムや医療・介護分野における災害対策、ボランティア活動、公的支援制度、防災時における情報の利活用にいたる幅広い視点から災害と防災について学びます。履修した学生が、災害時にまず自分自身の生命を守ると同時に、地域の防災力を高める活動に貢献できる人材として成長できることを目指し、地域を災害から守り減災に努めるための意識と知識と技術を身につけられる内容です。授業の中では、「クロスロード」を使った意思決定、災害時における身体や心の変化についてのシミュレーションなど、学生が主体的に参加するプログラムも取り入れています。また、講義にあたっては、テーマごとに専門の教員がオムニバス形式で担当します。

Q&A

Q1 / 地域教育の授業科目は、「全学共通科目」、「専門科目」及び「自由科目」にそれぞれ入っていますが、どのように学ばいいのですか。

本学の地域教育プログラムは、在学中を通じて地域のことを学べるように構成されています。まず、入学すると全ての学生が全学共通科目の授業を中心に学びます。その中に、地域連携科目が6科目開講されています。全て選択科目となっていますので、シラバスなどで内容を確認して興味と関心のある科目を選んで履修してください。2年次から4年次までの授業は、一部の全学共通科目と共に専門科目を中心に履修します。専門科目の中にも地域に関する内容を含んだ科目（地域志向型）が開講されていますので、1年生で学んだ地域の学習をさらに深めることができます。さらに、1年次から4年次（短期大学部は1年・2年）を通して学外での地域貢献活動やボランティア活動の要件を満たせば授業単位として認定する制度を設けており、学外での活動を通じて地域の課題や解決法などを学ぶことを期待しています。このように本学では4年間（短期大学部は2年間）を通して地域の問題をいろいろな角度から学ぶことができますので、積極的な学修をしてみましょう。

Q2 / 地方創生と地域教育はどのような関係ですか。

地方創生は、東京一極集中の解消、地域社会の問題の解決、地域における就業機会の創出などを柱とし、国と県が協力して取り組んでいる地域振興活性化のための事業です。その内容は、農業、観光、科学技術イノベーションなど様々なものがあります。徳島県においても平成27年7月に「新未来創造とくしま行動計画」を策定し、長期的に取り組む長期ビジョン、10年程度の先を見据えた中期プラン、当面取り組む行動計画に分け、新しい価値を生み出す取り組みを行っています。この地域に存在する本学、特に県内出身学生が多く、卒業して県内の企業や官公庁に多く就職を希望する学生がいる大学として、国、県の行っている地方創生の取り組みと深い関わりがあります。このため、地域のことをよく学び、大学と地域が協働・協力して課題を解決するための知識・技術を身に付けるために地域教育を充実させています。

Q3 / 地域教育の授業ではアクティブラーニングの方法を採用しているのですか。

アクティブラーニングとは、教員が一方向的な講義形式で行う授業と異なり、学生が自ら働きかけるなどして学修に参加することを採り入れた授業方法です。この方法は学生が積極的に参加し学修することにより、認知的、倫理的、社会的な能力が養われ、知識や経験を含めた汎用的な能力も身に付くとされ、近年多くの授業で採り入れられています。具体的には、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどにより、課題の発見や問題解決を共に経験できる効果が期待できます。「地域未来探求」や「地域創生入門」では、学生がより理解して課題の発見や解決を目指したアクティブラーニングの方法を採用しています。

Q4 / 全学共通科目の1年次で学ぶ科目が、他の科目と重なり履修できませんでした。2年次で履修することはできますか。

1年次で履修できなかった場合は、2年次においても履修できます。詳しくは全学共通教育センター事務室にお問い合わせください。

自由科目

自由科目に 地域教育関連科目を開設

自由科目として開設する「地域貢献・ボランティア活動Ⅰ」、「地域貢献・ボランティア活動Ⅱ」や「地域企業等研究活動」の3科目は、学内での講義や演習による授業ではなく、学生自らが在学中に学内外での社会に対する貢献活動、ボランティア活動や自らのキャリア形成、就職活動の準備に役立つ地域の企業等を研究する活動を行って、定められた時間数を積み上げることによって授業科目の学修として単位を認定するものです。この科目は、学生の自主的な活動と一体となったものですので、どのような活動が授業科目として評価の対象となるのか、活動時間の計算方法、また、活動後の単位認定までの手続きなどについては、10ページから記載されていますのでご覧ください。



自由科目の詳細は履修要項をご覧ください。また、不明なことは、チューターや地域教育・連携センターの窓口でお問い合わせください。

自由科目に設定されている地域教育関連科目

授業科目	単位数		単位の修得方法
	大学	短大	
地域貢献・ ボランティア活動Ⅰ	2	1	マナバコースから、オンデマンドによる講義を受け、SUDAchi CARDを取得します。対象となる活動を60時間（短大30時間）積み重ね、活動内容や結果をレポートなどで提出し、チューターの評価を受けて単位として認定されます。「活動Ⅰ」の時間が60時間（短大30時間）を超えると「活動Ⅱ」の時間としてカウントされます。（活動事例はP14をチェック）
地域貢献・ ボランティア活動Ⅱ	2	1	
地域企業等研究活動	2	1	マナバコースから、オンデマンドによる講義を受け、SUDAchi CARDを取得します。外部の企業などで60時間（短大30時間）の地域の企業等を研究する活動を行い、活動内容や結果をレポートなどで提出し、チューターの評価を受けて単位として認定されます。（活動事例はP24をチェック）

この科目は、学年を問わず全学生が対象となります。

また、成績評価は、本学の学業成績評価規則を適用せず「認定」として評価されます。



地域教育活動の取り組みについて

大学と地域社会

近年、大きく変化する地域社会・経済・環境の中で、これからの時代に生きる若い世代には、大学内での授業や生活で自らを磨くだけでなく、地域社会において現実生じている問題などを正しく受け止め、課題解決に向けた取り組みをすることが求められています。本学では、これまで学生に学内での授業だけではなく、広く学外にも目を向け、地域のフィールドに参加して実態を知る機会を得て、様々な体験をして、これからの大学での学修やキャリア形成に活かしていくことを奨めてきました。平成29年4月から、地域教育を体系的に整え、学生が地域に関する知識や課題、またその解決法について学ぶとともに、学外でのフィールドワークにも積極的に参加していることを評価して、地域教育に関連する授業科目の単位として認定することになりました。

地域での学生の活動

これまで本学学生は学外で自主的に次のような地域貢献活動、ボランティア活動、地域企業等研究活動(以下「活動」という。)を行っています。



←
具体の
取り組みについては、
QRコードをチェック!!

学部・学科・専攻単位で行っている活動	① 学部・学科・専攻単位で行っている活動 ② 学部・学科・専攻の学生のサークル単位で行っている活動	
全学として行っている活動	① 地域教育・連携センターがコーディネートして行っている活動 ② 学生ボランティア活動支援室がコーディネートして行っている活動 ③ キャリアセンターがコーディネートして行っている活動 ④ 学生の優れた取り組みに対する支援(学生支援GP)を受けて行っている活動 ⑤ 全学学生のクラブ・サークル単位として行っている活動	
その他	その他学生の自主的な活動 ※事前に必ず地域教育・連携センターの窓口でご相談ください。	

上表に示す地域貢献活動、ボランティア活動などが、地域教育関連科目の単位認定につながりますので積極的に活動に参加してください。上表に示す活動の具体の取り組み事例は、センター窓口またはQRコードから確認できますので参考にしてください。

「SUDAchi CARD」

1 マナバコースから
「ボランティアに関する事前学習」を受講

2 地域教育・連携センターで
「SUDAchi CARD」を取得

カード発行



3 活動開始

- 地域貢献・ボランティア活動
- 地域企業等研究活動



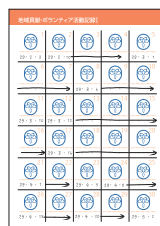
4 活動時間に応じて押印取得

同時に「自己教育カシート」にも詳細を記入

活動1時間
につき1印

5 活動終了後、
地域教育・連携センターにて記録

単位の修得には押印×60個
(短大は30個)



活動履歴の記録



6 報告書を作成

報告書を
チューターがCheck!

レポート・報告書



7 活動時間に応じて
単位の修得

教育支援課【単位認定処理】

単位の修得



SUDAchi = Shikoku University Dream Achievement / 四国大学夢実現

全学的な推進組織の体制を整備し、地域課題の解決に向けたカリキュラムの充実を図り、特色ある“地域貢献型人材”を育成します。

と単位認定の流れ

1

「ボランティアに関する事前学習」の受講

地域貢献活動、ボランティア活動、地域企業等研究活動を行う前に、マナビコースから「ボランティアに関する事前学習」を受講します。受講後にチェックシートに回答し、地域教育・連携センターへ行きます。

2

「SUDAchi CARD」の取得

地域教育・連携センターで「SUDAchi CARD」を取得してください。
取得が完了しますと学生個人の活動を記入する台帳が作成されます。



「SUDAchi CARD」とは

「SUDAchi CARD」は「地域貢献・ボランティア活動記録Ⅰ」、「地域貢献・ボランティア活動記録Ⅱ」及び「地域企業等研究活動記録」が綴られており、活動を行ったことを証明するためのスタンプ押印欄がそれぞれ60個あります。
このカードは在学期間中使用しますので大切に扱ってください。

3・4

活動開始とスタンプの押印



活動に出かけるときは
「SUDAchi CARD」を
必ず持参してください。

活動が終了しますと、同行した本学教員からスタンプ押印欄に活動時間分の押印がされます。また、本学教員が同行せず学生だけで活動に出る場合は、活動前に地域教育・連携センターまで届け出をしてください。その際、「活動証明書」用紙を渡しますので、現地にいる活動責任者に記入してもらってください。活動終了日から1週間以内に証明書を地域教育・連携センターまで持ってくると、センターでスタンプの押印をします。カードの「地域貢献・ボランティア活動記録Ⅰ」の押印数が60（短期大学部の学生は30）を超えると「地域貢献・ボランティア活動記録Ⅱ」に押印してもらってください。

「自己教育カシート」への記入

「四国大学スタンダード自己教育カシート」の自分の課題に対する取り組み（ボランティアなど）欄に学生が活動の詳細を記入し、それをチューターが確認することになります。「自己教育カシート」の記入は、将来就職活動などで大学時代に取り組んできたことのアピールやエントリーシートの記入で役立つことになりますので必ず記入してください。

5

センターの台帳への登録

学生の活動時間数は、単位認定に必要となります。このため地域教育・連携センターの台帳に登録することになっていますので、センターにカードを持参して台帳に登録してもらってください。

6・7

報告書の作成と単位の認定手続

一定時間（大学は60時間、短期大学部は30時間）に到達すると活動に関するレポートまたは報告書などを作成し、チューターに提出して説明をすることになります。チューターは、学生から提出されたものにより時間数を把握するとともにレポートなどで単位の認定に相当するかを判断し、評価をした場合は単位認定の処理について事務局（教育支援課）に報告することになります。不明な点や疑問に思われることは、センター窓口で相談・お問い合わせください。

活動時間の計算

社会貢献活動やボランティア活動は、県内のいろいろな地域からの要請や学生の自主的な取り組みとして活発に行われています。また、これまで災害ボランティア活動として県外での活動も行われています。これらの活動の取り組みについて、それに要した時間を適切に処理するため、活動時間や移動時間などについて次のような基準を設けています。

活動時間について

社会貢献活動やボランティア活動などの活動時間は、原則としてその活動を行うための集合時間から解散時間までの総時間とします。なお、30分以上の端数は切り上げて1時間として計算します。

移動時間について

活動地までにはいろいろな移動手段が考えられますが、その移動時間は、大学を起点として活動場所まで1時間未満の場合は活動時間に含めないこととします。なお、1時間以上の場合は、その2分の1を活動時間に含めて計算します。活動終了後の大学までの移動についても同様とします。

休憩時間について

活動を行うには、まず、健康管理が大切です。このため、1回の活動時間のうち30分までの休憩時間は活動時間に含めることとします。これまで述べた活動時間や休憩時間はあくまで原則です。屋外での重労働や炎天下での作業など、活動内容や活動環境に応じて活動責任者が適切に判断することになります。

累積した活動時間の有効期間

学生が活動して累積した活動時間は在学期間中有効に扱われ、単位認定を受けることができます。

Q & A

Q1 / 地域貢献活動やボランティア活動で活動時間が60時間に満たないと授業科目の単位認定を受けることはできないのですか。

学外での活動は、学生の様々な体験を通して地域への貢献となり、さらには学生のキャリア形成に大変重要です。このため、大学では学外での活動を積極的に行うことを奨めてきていますが、これらの活動を授業科目に置き換えて単位を認定しています。この活動は、学外での実習科目に相当するとみなし、単位を認定するには、1単位につき最低30時間の活動が必要ですので2単位の科目の場合は、60時間の活動が必要となります。なお、短期大学部の科目は各1単位ですので30時間で単位認定がされます。

学生の活動とチューターの役割

学生の社会貢献活動やボランティア活動により、地域教育関連科目の単位認定を受けるには、チューターが大切な役割を果たすことになります。まず、学生がいろいろな活動をして、それを「SUDachi CARD」に活動時間を記録し、時々、チューターの意見を聞くことになります。このことは、チューターが、個々の学生がどのようなことに関心をもって活動しているか理解し、チューターと学生とのコミュニケーションが深まります。

地域貢献・ボランティア活動事例の紹介

人とサル共生プロジェクト～木頭ゆずちぎりたい(隊)！

過疎高齢化が進む那賀町木頭村で、未収穫のゆずが猿の餌とならないよう収穫を手伝いながら人とサルとの共生を学ぶボランティア体験学習を実施しています。約1トンのゆずをちぎり、猿の被害から地域の方々を守る有意義な活動となりました。さらに収穫後のゆずを使った「ゆずマーマレードジャム」を商品化するなどの活動にも取り組んでいます。



徳島県議会議事堂で書道パフォーマンス

本学と徳島県議会との包括的連携協定に基づく事業の一環として、徳島県議会議事堂1階ホールで文学部書道文化学科の学生が「書道パフォーマンス」を披露しました。本取り組みは平成24年度から毎年行っています。学生は音楽に合わせて楽しくパフォーマンスを行い、見事に作品を書き上げました。



学生の声 ～ボランティアに参加してみて～

- 私たちが住む町にどのような課題があるかを調べ、その解決に向けて自分は何ができるか考えるようになりました。
- 地域と一体になって何かをすることで、周りの方々のあたたかさや優しさを感じることができました。
- 今まで人と話すのが苦手でしたが、ボランティアに参加することで克服していきました。
- 地域のために頑張る人たちと関わることで、元気をもらえました。
- 県外出身で徳島について知らないことがありましたが、自然や伝統・遊びなどたくさんを知ることができました。
- 今までは何とも思っていなかったことに対して問題意識を持つようになり、勉強に力が入るようになりました。



Q & A

Q1 / 単位の認定を受けるときに、活動内容・結果をまとめたレポート又は報告書を作成することになっていますが、「自己教育力シート」にも記入が必要ですか。

学生の社会貢献活動やボランティア活動は、大学生活の中で意義の深いものです。単位の認定申請のためレポートなどを作成すると同時に「四国大学スタンダード自己教育力シート」に忘れずに記入してください。「自己教育力シート」は、これからの就職活動での具体的な説明材料にもなり、エントリーシートや履歴書にも記入して面接時の自己アピールにも活用できます。

優れた活動等に対する表彰

学生自らが地域への貢献活動やボランティア活動などに積極的に参加することを薦め、それらを評価し、特に優れた活動を表彰する制度を設けています。毎年、学生の地域貢献活動等優秀賞を決定し、表彰式を行なっています。表彰されたうち2名を紹介します。



児童学科

北島 佑華さん

【活動内容】

- 学習支援ボランティア
- 子ども食堂ボランティア
- 徳島ひょうたん島水都キャンドルナイトボランティア
- 鳴門ソニタクラブ児童画展の準備や片付け
- 人とサル共生プロジェクト～ゆずぎりたい(隊)～

【コメント】

四国大学ゴールデンズクラブの会員として、またボランティアコーディネーターとしてボランティア活動に携わってきました。いろんな人と出会い、自分の価値観や考え、世界が広まりました。教員としてこれらの経験を学校現場の取組みに活かしていきます。



音楽科

加林 龍治さん

【活動内容】

- マチ★アソビ運営ボランティア
- 緑カーテン栽培講習会
- 環境活動に係る出前授業

【コメント】

緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチームとして地球温暖化防止に向けた取り組みや、マチ★アソビの運営ボランティアの活動を行ってきました。

どちらも私が高校生の頃に知ったジャンルの取り組みで、地球環境とアニメイベントは関係がないように思えますが、これから地球の気温が上がるによりイベントを開催することが出来なくなる可能性もあります。自分自身も周りの人達も、今や未来を生きることを楽しみを感じられる世の中を作っていきたいと思います。

トピックス

とくしまボランティアパスポートが開始!

学生のボランティアを奨励することを目的に、徳島県の「とくしまボランティアパスポート」事業が開始しました。とくしまボランティアパスポート事業とは、徳島県が発行する「とくしまボランティアパスポート」を活用して、ボランティアについて学び、体験する機会を提供し、活動実績に基づき表彰する制度です。広く学生のボランティア活動に対する社会的評価を促進し、その啓発普及を図り、次代を担う人材の育成と若者の社会参加の促進に資することを目的としています。

ボランティアパスポートの仕組み

1 マナビコースから「ボランティアに関する事前学習」を受講



地域教育・連携センターで緑のパスポートを取得

2 緑のパスポート

- ボランティア活動40時間
- レポートを提出



赤のパスポートを配布

3 赤のパスポート

- ボランティア活動40時間(累計80時間)
- レポートを提出



青のパスポートを配布
学長修了証

4 青のパスポート

- ボランティア活動40時間(累計120時間)
- レポートを提出



知事表彰

活動した時間は、「地域貢献・ボランティア活動Ⅰ」、「地域貢献・ボランティア活動Ⅱ」でも活用できます。

Q&A

Q1 / 「地域企業等研究活動」はどのような活動が対象ですか。

地域の産業や企業などの実情を知り、それに対して自ら課題を設けて探求することは、地域社会・経済の理解が深まるばかりではなく、将来の就職活動にも役立つこととなります。このため、企業説明会などに積極的に参加し、関心のある企業を訪問して知りたいことについて質問し、それをまとめて研究することは意義のあることです。この活動に該当する一例として、中国・四国地区（以下、「中四国」という）の大学が毎年実施している「中四国産学連携合宿授業」があります。この活動は中四国の5～6大学が2泊3日で行っているもので、民間企業（令和元年度は広島のマツダ）の協力を得て各大学から3人程度参加し、設定されたテーマに沿った講義を受け、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れたものです。毎年夏休みに行っていますので是非チャレンジしてください。学科からの推薦により、参加者を決定していますので、詳しくは、就職キャリア支援課にお問い合わせください。

Q2 / 地域での学生の活動のうち、「その他学生の自主的な活動」とは、どのようなものですか。また、グループではなく単独での活動は、対象となるのですか。

地域での学生の活動として、学部・学科・専攻単位で行っているものや学生ボランティア活動支援室などが窓口となって全学的に行っているものなど多様なものがあります。これまでの具体的な活動事例は、地域教育・連携センターに用意していますので参考にしてください。なお、「その他学生の自主的な活動」は、今後新しい形で取り組んでいく活動も考えられるので、幅広く対象とするために設けてあります。また、一人での活動も対象となりますが、活動した内容や時間を証明してくれる人が必要ですので留意してください。新しく取り組む活動などについては、地域教育・連携センターに相談してください。

Q3 / 「SUDachi CARD」に60時間分の押印を受けました。 単位の認定を受けるには、このカードに加え、レポート又は報告書が必要ですが どの程度のレポートなどを作成すればよいのでしょうか。 また、そのレポートはグループで作成してもいいのでしょうか。

レポートなどの内容について、統一的な様式は設けていませんが、活動の目的、内容、成果、感じたことや反省点などの振り返りをまとめて記述し、チューターに説明して、評価してもらうことになりますので、内容のあるものを作成してください。また、グループなど共同で行った活動の記述は同一でも差し支えありませんが、あくまで学生個人のレポートを作成することになっていますので留意してください。

地域教育に
関する
授業科目

専門科目(地域志向型)

本学での地域教育は大学、短期大学部の在学期間を通して学べるように構成しています。全ての学生が全学共通教育で地域に関する知識や技術を学んだ後に、各学科・専攻の専門科目においても、次のとおり地域に関する内容を含んだ授業科目(地域志向型科目)を設けています。 ※開講時期は変更する場合があります。

	科目名	授業内容(概略)
文学部	日本文学科 日本文化史演習 3年前期	徳島県内の寺院や博物館所蔵の古文書や聖教、美術品等の調査を学生たちが主体となって行い、その成果を発表します。この活動を通じて、歴史文化研究の方法を学ぶとともに、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力向上を目指します。
	日本文学科 地域研究I(文学) 3年前期	徳島は近現代文学史上重要な役割を担った作家を複数輩出しており、その代表が北條民雄、富士正晴、瀬戸内寂聴の三人です。授業では特にこの三作家に注目し、代表的作品をとり上げ講読するとともに、文学性や文学史的意義について考察します。
	日本文学科 地域研究II(歴史) 3年後期	故郷、地域を見つめる眼を養うことは自分を見つめ直すことにもなります。徳島の中世から近世の歴史文化、例えば三好氏や蜂須賀氏、藍や阿波踊りなど豊かな先人たちの歩みを史料に基づき学んでいきます。学生たちにも課題を設定してもらい、調べる力、考える力を身につけます。
	書道文化学科 実用書法 3年前期	日常生活に使える、のし書き、宛名、賞状、表札などの揮毫技術の習得のほか、地域活動で利用できる看板や商品表示の揮毫の練習もします。出来上がった作品の一部は、徳島市の商店街の店舗や、美馬市立図書館内に展示します。書の応用力と実践力を育てます。
	書道文化学科 書と工芸 4年後期	本学の藍の家にて藍染のハンカチーフを制作します。自らが筆書した文字を漂白剤入りの糊を使って白抜きします。書と徳島の伝統産業、藍染がコラボしたもののづくりの一端として発信します。また、徳島在住の作家を講師として招き、書を活用した陶芸作品や一閑張り作品も制作します。
	国際文化学科 Japanese Culture 1年前期	日本人学生と外国人留学生が協同して、藍染、お遍路、阿波踊りなどの徳島文化について調べ、英語で発表するプロジェクト学習の形をとっています。また留学生には実際に藍染工場やお寺などをフィールドワークで回り、日本や地域の文化の理解を深める体験型の授業も行います。
	国際文化学科 ホテル&ツーリズムI 3年前期	インバウンド・ツーリズム(外国人の訪日旅行)に焦点を当てつつ、旅行業界に関する政府の取り組みや訪日旅行者の文化・宗教への理解、英語での接遇を中心に授業を展開しています。さらに、JAL徳島空港所のご協力を得、職場見学も実施します。
	国際文化学科 ホテル&ツーリズムII 3年後期	日本航空(JAL)との共同授業として、航空業界の第一線で活躍している講師陣とともに航空業界のしくみや現状、航空産業を支える様々な仕事、顧客満足向上への取り組みなどに関して具体的かつ実践的に学びます。将来、航空業界や観光業で活躍できる人材となることを目指します。
	経営情報学科 地域経営論 3年前期	発展する地域と衰退する地域の違いは何かというテーマのもとに、地方都市や農山村部それぞれの地域のあり方や目指す方向性について考えます。地域づくりに参加する住民の立場から、地域経営の主体について具体的に述べられるようになることを目指します。
経営情報学部	経営情報学科 地域創生論 4年前期	わが国における都市と地方の構造と社会経済情勢を理解します。特に、各地域の地域活性化のための具体的な取り組みをみていくことで、地域活力の源を検討します。そして、徳島県を事例として、自ら地域創生のための方策を提案できるようになることを目指します。
	経営情報学科 地域協働論 4年前期	教室での座学に加えて、教室の外に出て実際の地域協働活動を体験することで理論と実践の現場への理解を深めます。現地での協働体験を通して、地域の状況の把握や課題への解決方法などを考えます。そして、地域活性化における協働の意味を語れるようになることを目指します。
	メディア情報学科 eビジネスプロジェクト演習 3年後期	インターネット技術を活用したビジネスモデルを提案して地域の課題を解決することで、eビジネスの有効利用を実践します。企画提案とソリューション構築を通して、eビジネスの基礎的な知識や技術を実際のプロジェクト遂行に応用する力を身につけます。
	メディア情報学科 メディアデザインプロジェクト演習 3年後期	映像コンテンツの制作と発信によりメディアを活用して地域の課題を解決することで、メディアの有効利用を実践します。企画する力、実現する力をつけ、映像制作の基礎的な知識や技術を実際のプロジェクト遂行に応用する力を身につけます。

経営情報学部	メディア情報学科	科目名	授業内容(概略)
		情報システムプロジェクト演習 3年後期	地域課題を含むテーマを一部対象として、情報システムの開発を通じ、ソフトウェア開発の各工程の役割と全工程を総合的に理解します。自ら実行する能力とプロジェクト全体を管理する能力を養い、ICTの基礎的な知識や技術を実際のプロジェクト遂行に応用する力を身につけます。
生活科学部	人間生活科学科	デザインマネジメント論 2年前期	「デザイン」とは何かをキーワードにゲスト講師を招き、魅力ある地域資源を発見する方法、ニーズの捉え方、商品・サービスの企画提案方法など、デザイナーの職責について広く学びます。またインクルーシブデザインについて、3Dプリンタを用いた作品制作を通して学びます。
		デジタルアート演習 2年後期	イメージキャラクターやキービジュアルに必要なイラスト描画を、液晶ペンタブレットを使って学習します。そのノウハウを活かし、地域や企業から依頼がある場合、ビジュアルデザイン(チラシ、看板、POP他)の調査・企画・制作について、より実践的な力を身に付けることを目指します。
		コミュニケーションデザイン 3年前期	チームで働くことの大切さや地域・社会との関わり方、イベントや企画の立て方などを学びます。実際に学生自らが取材や市場調査、企画やデザイン、プレゼンテーションを行い、関係を活性化できる力を身に付けることを目指します。
		フィールド研究 3年後期	フィールドワークを通じて、地域が抱える諸課題について実践的に学びます。発見した課題を分析し、解決するための方策を提案してもらうことを目的としています。また地域の人々と交流し、仲間と協力して課題に取り組む実行力も身につけてもらいたいと考えています。
	健康栄養学科	地域健康づくり論 2年後期	人口の高齢化が進む地域(徳島)における健康問題や栄養摂取状況の特徴ならびにその問題点を把握し、地域住民が健康に暮らすことを目的とした、地域の健康づくりのための施策と実践例について学びます。
		フードデザイン実践 3年前期	食の外部化が進み、地元の食文化を知る機会が少なくなりました。本授業では次世代に伝えられるように徳島の食文化や特産品について学び、郷土料理や伝統的な料理を修得するとともに、地元食材を生かした商品開発や創作料理にも挑戦します。
	児童学科	卒業研究演習Ⅰ 3年前期	各専門の基礎的内容について実践を通して学びます。実践では、各専門分野により、小学校・幼稚園・保育所・認定子ども園などに出向いての指導やフィールドワークも行います。また、地域の子どもを大学に招いての学科イベントなどを開催して大学から発信する地域貢献事業も実践します。
		卒業研究演習Ⅱ 3年後期	各専門分野により、地域に出向いての指導や公演、フィールドワークなどで、地域との関係を活性化できる力を身に付けます。また、様々な学科行事も含め、学生と地域の保育士・教員との交流から徳島の保育や教育における実践力をを持った人材の育成を目指します。
看護学部	看護学科	フィールド体験実習 1年前期	地域で生活する人々とその環境や人々の健康を護るための機関や施設について理解を深める科目です。実習初日に地域特性、実習施設の役割について事前学習し、実習2～4日目はグループで、徳島市、鳴門市、小松島市など近隣地域に出向き実習を体験し、5日目に学びの発表を行います。
		課題探求ゼミナール 3年前期	学生の関心ある地域の課題について少人数演習によって解決に向けた取り組みを行います。具体的には「地域高齢者の健康支援の取り組み」、「地域子育て支援活動の理解」や「地域住民の防災に対する意識向上と支援のあり方」などのテーマに取り組みます。

専門科目(地域志向型) ※開講時期は変更する場合があります。

	科目名	授業内容(概略)
ビジネス・コミュニケーション科	地域ビジネス演習Ⅰ 1年前期	徳島の産業や地域ビジネスについて、成り立ちや社会的背景、県民のライフスタイルなど様々な視点から学ぶことを通じて、地域で働くことや地域貢献について理解を深めることを目的としています。また、地産地消やエシカル消費についても、地域ビジネスの活性化の観点から学習します。
	地域ビジネス演習Ⅱ 1年後期	徳島県の様々な地域資源について学び、その魅力を広く発信するためのフィールドワークを実践します。徳島ならではの魅力をブランディングする上で、地域の活性化や地方創生の観点から、その地域が抱える課題を発見し解決に向けた提案を行うことを目指します。
	地域ビジネス演習Ⅲ 2年前期	徳島の魅力を「人と暮らし」の面から発見し、徳島県の伝統や文化について理解を深めることを目的としています。さらに、その魅力を発信するために、地域活性化にかかわる方々とのワークショップを通じて、現状と課題を学びます。
人間健康科食物栄養専攻	食物栄養総合研究 1年後期	食品関連企業に就職する人材として、また栄養士として、必要とされる知識・技術・態度・考え方などの総合的な能力を養うことや、意識の高揚を図ることを目的としています。6名の教員がそれぞれの専門分野からの講義をオムニバスで実施しており、担当講義のうち少なくとも1回が地域の課題(食品、食文化、栄養など)に係わる内容となっています。
	卒業研究 2年通年	学生が選定したテーマに沿って研究活動を行います。食品、栄養に関する課題や問題点を理解し、改善する方法や考察する力を養うことをねらいとします。各教員の専門分野からのアプローチを通して、地域教育(徳島の地域資源、特産物、食文化、食育など)に係わるテーマを取り上げます。
人間健康科介護福祉専攻	生活と福祉Ⅰ 1年後期	社会福祉の理念や法制度とその体系などを通して、私たちの暮らしの中での社会福祉の役割について学習します。主に、①家族や地域、人と社会との関係②社会福祉の思想や理念等③社会福祉の法制度とその体系および福祉サービス等について学習します。
	生活と福祉Ⅱ 2年前期	わが国の社会保障の枠組みを踏まえ、介護保険制度や障害者支援についての法制度および福祉サービスや権利擁護などについて学習します。主に①介護保険制度について、その理念や歴史的背景、かつ具体的サービス内容②障害者の自立支援を担う法制度と具体的サービス内容等について学習します。

Q & A

Q1 / 地域志向型の専門科目はどのようなものですか。

各学科・専攻の専門科目は、学生がどのような知識・技術を身に付けるかや免許、資格を取るために必要な専門的内容を中心にカリキュラムが編成されています。本学では多くの学生が県内での就職を希望していることから、専門科目の中に県内の事柄を含めたものとするよう取り組んできています。例えば、健康栄養学科の「フードデザイン実践」では地域の伝統的な食文化についての理解を深めるため、地域に根付いた郷土料理・特産物やそれらを取り巻く環境要因も合わせて学びます。また、ビジネス・コミュニケーション科の「地域ビジネス演習Ⅰ」「地域ビジネス演習Ⅱ」および「地域ビジネス演習Ⅲ」の授業科目は、徳島県を題材に授業が組み立てられ学ぶ学生がよく理解できるよう工夫しています。

	科目名	授業内容(概略)
短期大学部	幼児教育保育科 保育総合演習 2年前期	社会全体のテーマである少子化や児童虐待、長時間保育、子育て支援などといった保育に関する今日的課題についての現状分析をゼミごとに行います。その中で、問題解決に必要な保育者としての対応・判断方法などについて研究検討を試みます。なお、本学科の地域交流を意識したイベントである「ほいくまつり」に向けての準備にも当演習の時間をあてています。
	基礎ゼミⅡ 1年後期	子育てに関する問題を解決する過程を理解し、解決内容について再検討する「術」や子どもと関わる際の保育技術を、各チューター担当教員の専門分野を通して修得します。学園祭期間中に実施する本学科の地域交流イベントである「こどもひろば」に向けての準備にも当演習の時間をあてています。
音楽科	音楽指導法Ⅰ 1年後期	徳島県には古くから数多くの民謡や民俗芸能が伝承されています。しかしながら、民謡や民俗芸能の伝承に関しては危機的な状況にあります。民謡や民俗芸能の伝承に寄与するため、地域に残る民謡や祭り囃子などの調査などを行います。
	音楽指導法Ⅱ 2年前期	地域に残る民謡や祭り囃子は実際に演奏して伝承することが重要です。本来の姿のまま歌い継ぐことも大切ですが、新たなエッセンスを加えて若い世代に継承することも重要です。そこで、これらの音楽の伝承を目的に地域に残る民謡や祭り囃子などのアレンジを試みます。

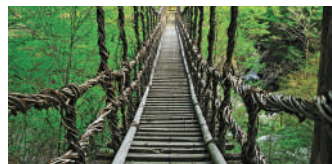


Q2 / 私の所属している学科以外の学科専門科目が、地域志向型専門科目に指定されており、興味がありますが受講できますか。

本学では、学生の所属する学科・専攻以外の専門科目を受講できる制度があります。この場合、受講する科目は、所属している学科・専攻の専門科目ではないので自由科目として扱われます。なお、単位認定を受ければ、大学は18単位、短期大学部は10単位まで自由科目として、それぞれ卒業に必要な単位として扱われます。また、講義科目以外の演習科目や実習科目などは、他学科・専攻の学生は履修できませんので注意してください。

(注)生活科学科は30単位まで自由科目として卒業に必要な単位として扱われ、看護学科は自由科目として受講はできますが、卒業単位として含めることはできません。

地域研究



●「新『あわ学』」への取り組み

「新『あわ学』」は、地元・徳島に関する社会、経済、産業、生活、歴史、文化及び観光などの各分野を体系的に整えたものです。徳島の現状を理解する「とくしま学」と、徳島で新しく芽生えつつある要素を知る「あたらしい徳島」の2分野について、関係資料を幅広く収集したうえでデータベース化し、それらを活かした教育と研究を展開するものです。徳島について視野を広げ、郷土に愛着を持って活躍・貢献する社会人として知っておくべき知識を、基本的な部分から深いところまで体系的に学ぶことができます。

「新『あわ学』」を構成する2分野

とくしま学

徳島の現状を知る基礎情報を集めています。

あたらしい徳島

学際融合研究所 新あわ学研究部門

徳島の魅力を発掘・発信します。

●まなびーあ徳島 「新あわ学コース」

「新あわ学コース」は、徳島のことについて歴史や文化などを体系的に学び、地域に愛着と誇りを持ち、徳島の魅力を再発見していただくことを目指しています。詳しくは、四国大学SUDAch推進室「新あわ学コース」事務局にお問い合わせください。

取り上げている分野

歴史

自然・地理

文化

産業・経済

地域

くらし

その他



●「大学的徳島ガイド」の紹介

徳島の歴史と文化(生活/経済・社会/空間など)について、四国大学の教員としての視点を活かして、ワンランク上の徳島の隠れた魅力をまとめた**ガイドブック**です。歩く(歴史と人)・楽しむ(くらしと食)・感じる(徳島の多彩な文化)をキーワードに、「とくしま学」分野・「あたらしい徳島」分野から、現在の徳島の特徴をよく表しているテーマを取り上げています。この本を読んで、実際に現地を訪ね歩く内容としています。地元の人でも知らない、また、地元だからこそ見えにくいところを取り上げている、一味違ったガイドブックです。本学の教員が執筆していますので、興味のあるテーマに目を通してみてください。





●「あわ検定」にチャレンジ

「あわ検定」は、「新あわ学」をベースとして徳島の過去から最新の動向を取扱い、徳島の歴史・文化・自然などについて深く掘下げるとともに、その魅力を再発見・再確認するために実施するご当地検定です。

オンライン試験
(四者択一/50問)

「とくしま学」+「あたらしい徳島」の両分野から出題される筆記試験です。

とくしま学

自然環境、人口、経済、産業、観光、
行政、歴史、文化、生活 など

あたらしい徳島

地域活性化の取り組み、マチ★アソビ、
隠れた地域の宝 など

「あわ検定」の過去問例

問題

「阿波踊り」に用いられる楽器には、鉦、三味線、横笛、締め太鼓、大太鼓、鼓などですが、これらを総称して何と呼ばれていますか。

- ① 音物
- ② 響き物
- ③ 騒き物
- ④ 鳴り物

正解④

問題

徳島に実在する場所や食べ物の名前で、「あわおどり」が付いていないのはどれですか。

- ① 空港
- ② 会館
- ③ 鶏肉
- ④ わかめ

正解④



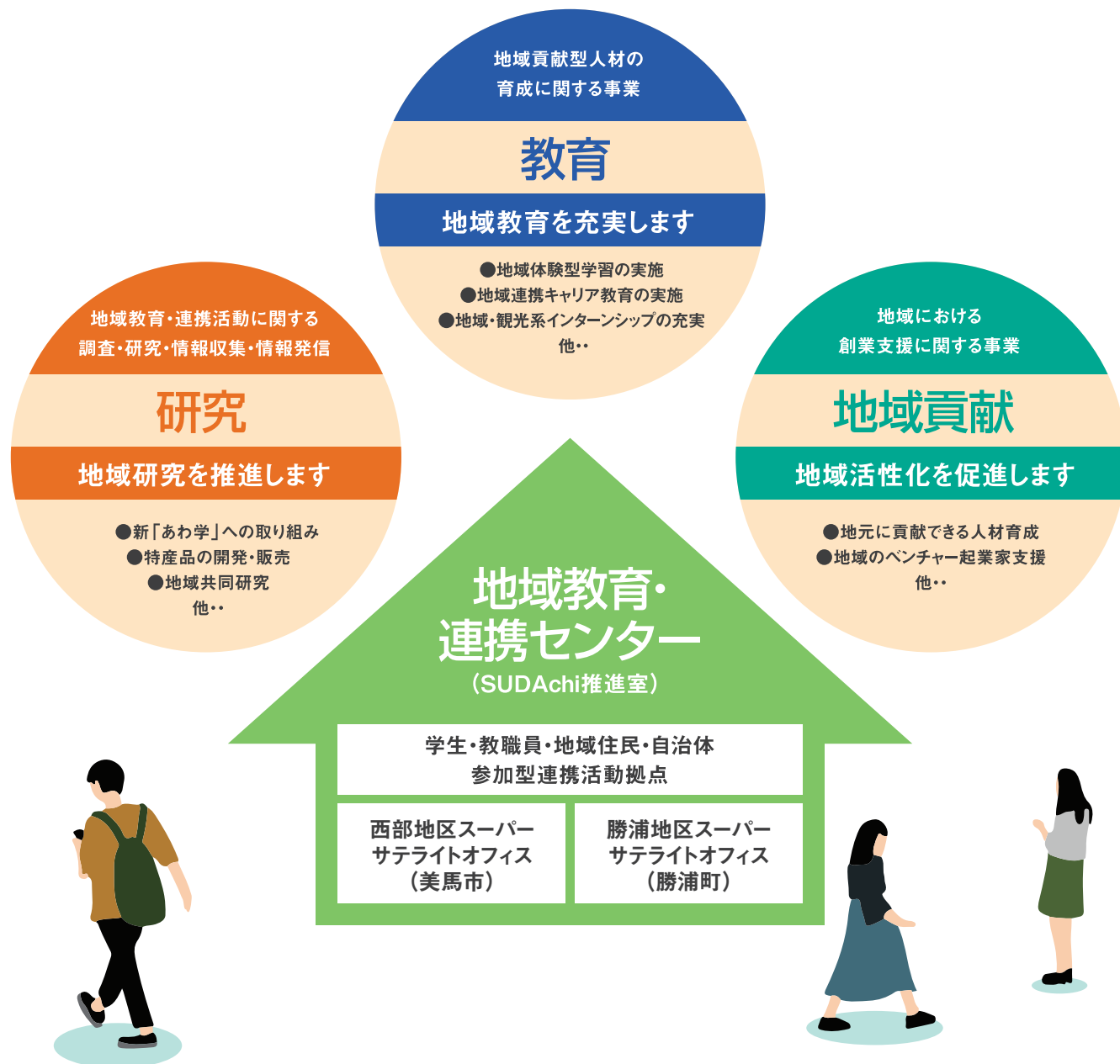
「あわ検定」に関する参考書

- 公益財団法人 徳島経済研究所編『徳島が好きになる本 文化と経済でみる徳島』/松下印刷・2016.7
- 徳島県教育委員会『あわ文化テキストブック』/「あわ文化テキストブック」活用検討委員会・2017.3
- 四国大学新あわ学研究所編『大学的徳島ガイドーこだわりの歩き方』/昭和堂・第2版 2020.7

これらの参考書で知識を増やし、実際に現地を訪れて体験し、ぜひ「あわ検定」にチャレンジしてください。

地域教育・連携センターの紹介

本センターでは、本学が文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC（Center of Community）事業）」に採択されたことを受け、平成26年からの5年間、「とくしまで学び育てる地域貢献型人材育成事業」に取り組みました。さらに平成27年からは、同じく文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環で、「創業支援事業」に取り組みました。また、これらの事業を県内の様々な地域で展開できるように、県西部（美馬市）、県中央部（勝浦町）にスーパーサテライトオフィス（SSO）を設置しています。今後は、これらの経験と成果を基礎とし、「先進的地域貢献大学の実践・確立・発信」「とくしまで学び育てる地域貢献型人材の育成」をビジョンとし、地域貢献活動に積極的に取り組んでまいります。



大学COC（Center of Community）事業とは？

大学と地域社会が連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める「地域のための大学」を支援することで、地域コミュニティの中核的存在としての大学づくりを目指すものです。



創業支援事業

「創業支援事業」は、起業家の育成、新規事業を創出するビジネスリーダーの育成を目的としたプログラムを実施しています。経営に求められる知識、スキル、ノウハウを実際に社会で“実践”することによって学ぶことに特徴があります。

企業×学生連携プロジェクト

県内の企業や自治体と連携して、様々なプロジェクトを行なっています。「学生開発プロジェクト」では、約半年間、県内企業と共同で開発に取り組みます。



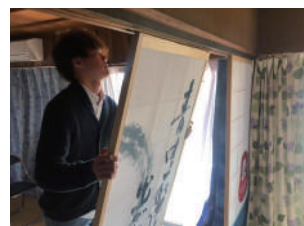
チャレンジショップ

事業のプランニング、申請、調達、商品・サービスの開発、仕入れ、広報といった商売の立ち上げから、1ヶ月間の運営まで全てを自分たちで行います。



個別伴走支援

「将来は起業家になる!」という方はもちろん、「ビジネスの実践的な経験をしてみたい!」「思いついた商売を小さく実践してみたい!」「社会に貢献できるプロジェクトを立ち上げたい!」といった思いや考えを持った学生さん達のプロジェクトの伴走支援に全力で取り組んでいます。また、「やりたいことが思い浮かばない」「何にフォーカスすればいいのかわからない」といった不安をもった学生さんでも、興味や関心ごと、得意なことを質問して、可能性を探り、自分が進みたい道を探すお手伝いも行います。お気軽にB館2階にお越しください!



2020年には「四国大学発ベンチャー制度」を創設し、学生自身が考えたビジネスを事業として実践する学生も誕生しています。



地域教育・連携センターの利用案内

地域教育・連携センターでは、地域貢献・ボランティア活動を支援するため、次の業務を行っています。

1 SUDAchi CARD
ボランティアパスポートの発行

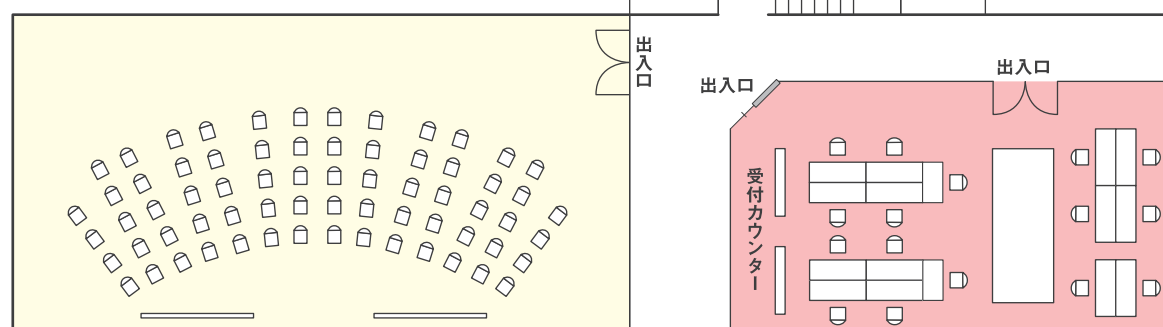
3 単位認定の手続き

2 活動の登録

4 活動内容の相談・サポート

詳しくはP11～P14を
ご覧下さい。

2F 地域教育・連携センター案内図 (SUDAchi館2階)



地域創生多目的フロア

※地域貢献活動に関するミーティングや発表準備などに利用できます。

地域教育・連携センター事務室

全学共通教育センターの紹介

全学共通教育センターの業務

全学共通教育センターでは、全学共通教育の円滑な実施と、新しい時代に対応した教育内容・教育方法の改善のため、主に以下の業務を行っています。

1

全学共通教育の教育課程の編成と実施

2

全学共通科目の履修登録の相談・指導

3

「四国大学スタンダード自己教育力シート」の入力サポート

4

教養講座の実施

5

全学共通教育の教育内容・教育方法の改善に向けた調査研究



全学共通教育センターの利用案内

全学共通教育センターの1階フロアには学生窓口のほか、「留学生スタディールーム」があります。

1

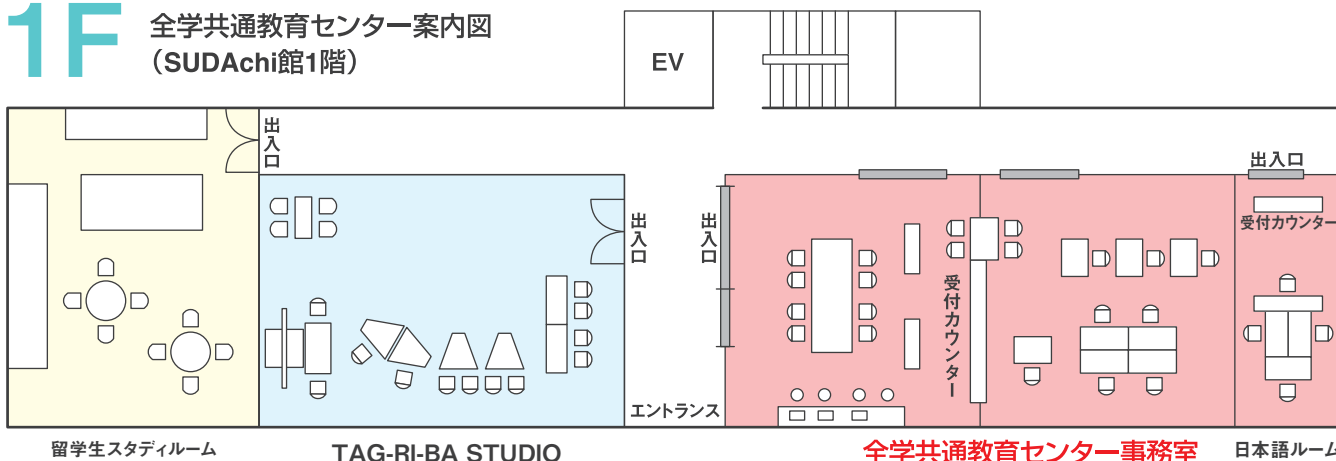
学生窓口では、履修登録の相談及び指導、「自己教育力シート」の入力など、全学共通教育における様々なサポートを行います。

2

留学生スタディールームでは、日本語学習コーディネーターによる個別指導や各種セミナーを実施しています。また、日本語学習のための書籍、パソコン、インターネットを整備し、留学生の学びをサポートしています。

1F

全学共通教育センター案内図
(SUDAch館1階)



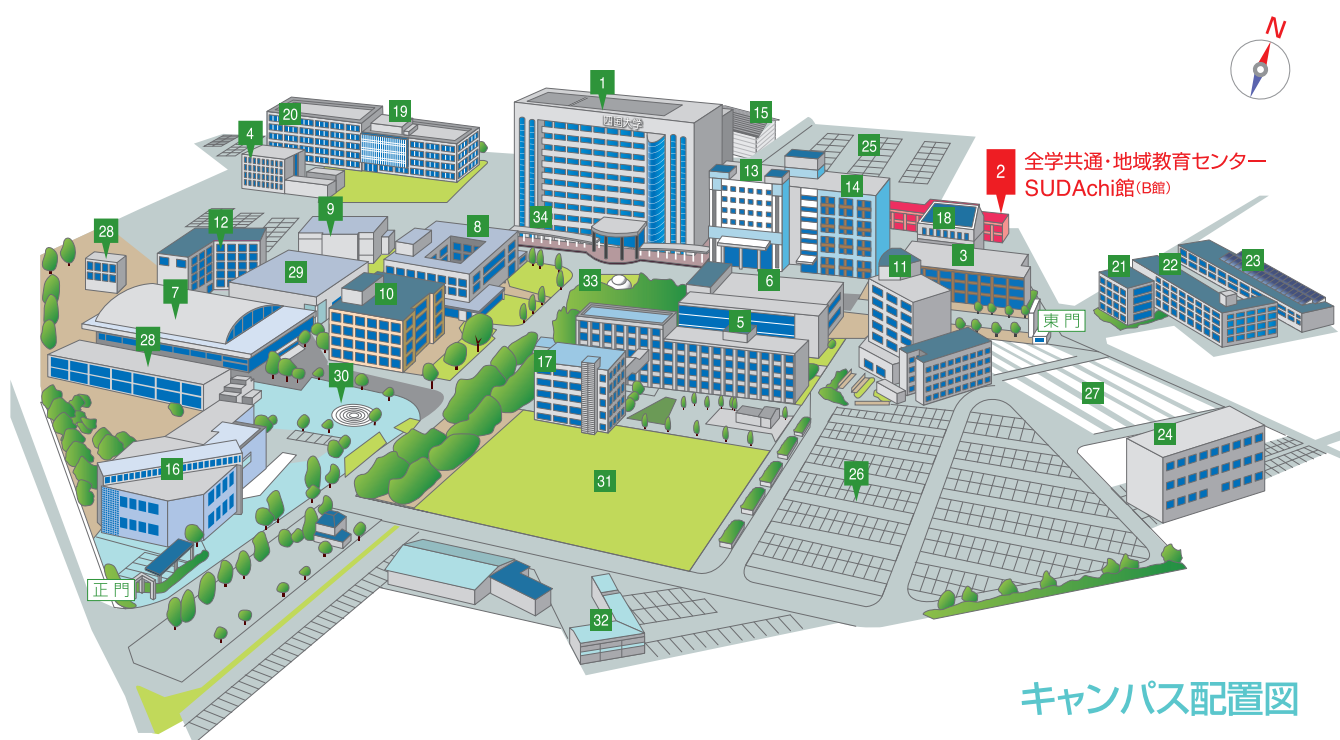
留学生スタディールーム

TAG-RI-BA STUDIO

全学共通教育センター事務室

日本語ルーム

全学共通・地域教育センター(SUDAchi館)



キャンパス配置図

- | | | | | |
|---------------------------------|----------------|------------------------|-----------|------------------|
| 1 中央棟(A館) | 7 体育館(H館) | 14 経営情報館(P館) | 21 第1学生寮 | 28 附属認定こども園 |
| 2 全学共通・地域教育センター
SUDAchi館(B館) | 8 大学会館(I館) | 15 藍の家(Q館) | 22 第2学生寮 | 29 スポーツ健康館 |
| 3 生活科学館(C館) | 9 音楽ホール(J館) | 16 共通講義棟(R館) | 23 第3学生寮 | 30 スクールバス発着場 |
| 4 芸術館(D館) | 10 本館(K館) | 17 書道文化館(S館) | 24 国際寮 | 31 多目的広場 |
| 5 文学館(F館) | 11 国際文化館(L館) | 18 ビジネス・コミュニケーション館(T館) | 25 北学生駐車場 | 32 クリーンセンター |
| 6 附属図書館(G館) | 12 研修館(M館) | 19 情報メディア館(U館) | 26 東学生駐車場 | 33 啐啄(そったく) |
| | 13 30周年記念館(N館) | 20 児童教育館(U館) | 27 駐輪場 | 34 セブン・イレブン四国大学店 |

人が集まる
「人」をつくる、大学。



SHIKOKU UNIVERSITY

四国大学

.....
全学共通教育センター
地域教育・連携センター

<https://www.shikoku-u.ac.jp/>
.....